

**(概要)交通政策審議会 航空分科会 基本政策部会とりまとめ****新時代の航空システムのあり方 ～世界のダイナミズムへの扉を開き、日本の明日を育む航空システム～****基本的  
考え方**

- ◆ アジア等の世界経済の成長を取込み日本経済の一層の発展を図るため、日本の航空システムの長所を伸ばしつつ、更に日本の空を世界に開く。国際航空の環境変化に機敏に対応し、戦略的に我が国航空企業や空港の国際競争力を向上。
- ◆ 我が国航空企業が、国際競争に対し後手に回っていると見られがちな対応から一歩踏み込み、航空ニーズの創造を積極的に進めることができるよう、航空行政は市場環境や将来動向等をにらみながら、ボトルネック解消のための環境整備を実施。

日本の航空が  
貢献すべき価値  
産業・都市の  
国際競争力向上訪日外国人  
旅行者の増加日本全国の  
地域活性化**1. 航空ネットワーク構築の  
ための強固な基盤づくり**

- ✓ 我が国の航空需要は着実な伸びを予想。国内外の航空企業が航空需要を積極的に創造できるよう、環境を整備。
- ✓ 我が国の航空会社・空港の国際競争力強化が必要。航空行政はそのボトルネックが生じないよう対応していく一方で、最大の鍵である航空企業の自助努力のための創意工夫を促すことも必要。

**(首都圏空港の更なる機能強化)**

※首都圏空港機能強化技術検討小委で別途検討中

- ◆ 機能強化に係る技術的選択肢を洗い出し。検討に基づく施策の具体化が必要
- ◆ 羽田・成田の特性を最大限生かす役割分担の議論が必要

**(首都圏以外の国際拠点空港等の機能強化)**

- ◆ 関空・中部を中心にLCCや訪日外国人旅行者受入れ、国際航空貨物の拠点としての機能強化と、利用促進のための経済的施策の検討が必要
- ◆ 那覇・福岡は抜本的な空港能力向上のための機能強化が急務

**(管制処理能力の向上等)**

- ◆ 空域の上下分離、ターミナル空域の拡大・統合等により処理能力を向上
- ◆ 航行援助施設利用料の飛行形態(上空通過・国際・国内)の違いによる不均衡解消を検討

**(空港経営改革の推進)**

- ◆ 地域にメリットが見えるよう民間委託の具体的なプロジェクトを推進
- ◆ 民間委託が当面行われない空港を含め、顧客満足向上の取組や空港事務所の役割強化、空港ターミナル会社における経営計画策定等が必要(我が国の航空企業のコスト競争力向上の環境づくり)

- ◆ 我が国航空企業のユニットコストは高水準。競争を通じた自助努力の喚起が重要
- ◆ 公租公課等について、相当部分を欧米並みに航空利用者から直接徴収する体系に移行することにつき、諸課題を整理の上、具体的な方策を検討

(操縦士・整備士等の養成・確保) ※乗員政策等検討合同小委で別途中間とりまとめ・検討継続

- ◆ 養成機関拡充や制度改善等による供給能力の確保、産官学の連携を強化

(環境面への配慮)

- ◆ 経済的手法による低騒音化促進の検討等、総合的な環境対策を推進

**2. 充実した航空ネットワーク  
の構築と需要の開拓**

- ✓ ASEAN等との路線網の充実、アジア＝北米間等の乗継需要の取込みを企図し、航空企業が自律的に需要創造するよう、ソフト施策を推進。
- ✓ 我が国航空企業は、限られた路線展開で競合。独自のネットワーク戦略を展開して国内外の需要を広く取り込むよう、航空行政が後押し。
- ✓ 2020年の訪日外国人旅行者2000万人の高みを目指し、訪日旅行需要の掘り起こしと航空路線ネットワーク展開を軌を一に実施。

**(より開かれた国際的枠組みの構築)**

- ◆ オープンスカイ合意国の拡大、ASEANとの多国間協定締結に向けた交渉推進
- ◆ 首都圏空港の容量拡大策等を踏まえた枠組みの一層の緩和、事業者間で発着枠が効果的に利用されるメカニズムの可能性を検討

**(我が国航空企業の国際航空ネットワーク戦略の構築)**

- ◆ 我が国航空企業は、強固なネットワーク構築に向けた戦略の確立が必要
- ◆ 航空行政は、ネットワーク戦略の後押しとなる航空協定上の枠組み設定、我が国航空企業の独自路線やセカンドブランドの展開、海外航空関連企業への投資等の側面支援、機材の円滑な活用に資する規制見直し、といった施策を検討し、健全な競争環境の確保に努めつつ、航空企業の取組を積極的に後押し

**(我が国の航空ネットワーク構築に重要な役割を果たすLCC)**

- ◆ LCC普及のため、空港関連コストの低減、就航・稼働率向上の環境整備等を推進

**(観光振興と一体となった航空ネットワークの構築)**

- ◆ 地方空港でのLCC等の受入れ、出入国手続円滑化、訪日旅行増加にインセンティブを与える仕組み等を観光政策と一体的に検討。東京五輪時には、旅行者等を全国で受入れ

**(ビジネスジェットの就航促進)**

- ◆ 首都圏空港の利用環境の改善を引き続き推進。東京五輪の需要増に万全に対応

**(我が国の航空貨物ネットワークの充実)**

- ◆ 国際トランジット貨物や生鮮品輸送の取込み、各地の成長産業を支える物流機能強化等のため、ボトルネックとなる制度や空港使用料体系の見直し等が必要

**(航空インフラの海外展開)**

- ◆ 周辺国のインフラ改善は、我が国航空ネットワーク強化や安全性向上に寄与。案件の上流段階からの関与や官民連携体制の強化が必要

(地方航空ネットワークの安定的な確保) → 中間とりまとめに基づき着実に推進

**3. 質の高い航空・空港サービスの提供**

- ✓ 日本の強みである優れた品質の提供能力を武器に、航空サービスの質的向上を遍く追求。

**(航空・空港サービスの安全の確保)**

- ◆ 事前予防的取組を強化。安全指標等の設定、積極的な情報発信を推進
- ◆ 新規企業乗入れや新機材トラブル等に対応し、重点的な監査・審査を実施
- ◆ 施設量増加や老朽化を踏まえた適切な維持管理・更新、施設の耐震化、空港のBCP策定や広域災害時の空港機能のあり方の検討等を推進

**(空港の利用環境の改善、空港アクセス強化)**

- ◆ 空港での乗継時間短縮、空間マネジメントやイレギュラー対応の改善等が必要
- ◆ 大都市圏では、アクセス鉄道網充実にに向けた検討、空港アクセスと新幹線等との接続性向上、安価で充実したバスアクセスと深夜早朝時間帯のアクセス充実が必要
- ◆ 地方では、地域等がアクセスを主体的に提供する取組も必要